

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351  
Internet:www.aids-chushi.or.jp

## エイズ医療対策室の今年度の体制について



こんにちは。前任の高田昇室長の後を引き継ぎました藤井輝久と申します。院内の正式なポストは“輸血部長・准教授”ですが、周りから室長扱いされているので、室長を名乗っています。

さて、冗談はこれくらいにして、エイズ医療対策室も新しい体制になりました。とは言っても移動があったのは医師だけで、看護師、カウンセラー、ソーシャルワーカー、情報事務担当の方々はそのままです。

前号にもありましたが、本院で診療するエイズ・HIV感染症患者さんは年々増え続け、累計で180名、現時点で継続受診者100名を超えています。院内のエイズケア体制を強化することはもちろんですが、今後は軽症や病状が安定している患者さんは他院でも診療できる体制を作る必要があります。そういった意味で、今年も医師、看護師、薬剤師など様々な職種向けの研修会を企画・開催し、中四国のエイズケアに携わるの方々をお招きして、研修して頂こうと考えています。

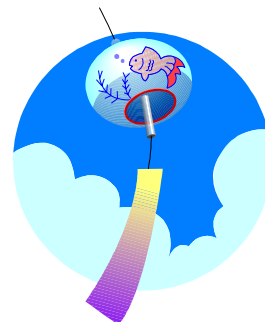
新たな試みとして、“歯科医師”対象の研修会を2回行う予定です。1回は中四国のエイズ拠点病院の歯科医師対象、もう1回は院内の若手歯科医師及び歯科衛生士、開業医向けのものです。歯周病診療科の柴講師のご協力のもと、企画作業を行っていますので、正式なプログラムができましたらまたお知らせ致します。

室長が18年若返り、周りから見れば力不足と思われるかも知れませんが、何卒よろしく願います。

(輸血部長 藤井 輝久)

## 目次:

エイズ医療対策室の今年度の体制について	1
「AIDS UPDATE」が101号となりました	1
職員向けエイズ講演会のご報告	2
エイズ海外実地研修を終えて	3
広島県エイズ中核拠点病院等連絡協議会・研修会のご案内	4
中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会のご案内	4
2010年7月～10月のHIV/AIDS関連イベントのご案内	4



## 「AIDS UPDATE」が101号となりました！

「AIDS Update」は広島大学病院エイズ医療対策室が編集し、院内に配布している広報誌です。エイズ治療中国四国ブロック拠点病院である広島大学病院の職員にHIV/AIDSに関する最新の情報を提供することを目的としています。1998年から発行を始め、エイズ医療対策室のメンバーが試行錯誤しながら作り続けてきましたが、今号で101号となりました。

これまで、HIV/AIDSの検査や治療に関する情報や疫学情報、講演会・研修会のご案内を主に掲載してきました。また、エイズ医療対策室の活動を知って

いただくため、開催した研修会の報告なども行ってきています。

この「AIDS Update」は今後も不定期に発行します。職員の皆さんに役立つ情報を発信し続けたいと思っていますので、各現場で必要としている情報についてご意見をいただければ幸いです。ご意見やご感想、また掲載の希望等がございましたら、エイズ医療対策室までご連絡ください。

これまでのバックナンバーは、中四国エイズセンターのHPに掲載していますので、ご覧下さい。

( <http://www.aids-chushi.or.jp/> )

## 「平成21年度広島大学教職員向けエイズ講演会」のご報告

3月25日に行われた平成21年度広島大学教職員向けエイズ講演会について、ご報告します。

まず初めに、全国的に見ても早い時期からHIVカウンセリングを始められた兒玉憲一先生の講演がありました。



HIVカウンセリングの経験を他領域の心理士支援に役立てたいという現在進行中のお話の後、効く薬がない頃のHIVカウンセリングの2事例を紹介されました。

死に逝く人やそのご家族を支えたカウンセリングのご報告は心を打つもので、そのような患者さんやご家族に真摯に向き合っていた姿勢に、私も少しでも近づきたいと思いました。

現在ではHIV医療も大きく進歩し、HIVカウンセリングの内容も変わってきましたが、心理士としての関わりには変わらないものも多くあると思います。当日配られた先生のエッセイの中に「心理士魂」という言葉がありましたが、その情熱を引き継いでいきたいと、思いを新たにしました。



次に、看護部エイズワーキンググループの下川直美さんの講演がありました。

HIV/AIDSの海外実地研修に参加した看護師さん達がエイズワーキンググループを作り、活動されてきた10年間の歩みを報告してくださいました。

少人数で始まったグループが、HIV感染患者の増加に伴い、モチベーションをもって活動されていくようになった過程がよく分かる報告でした。院内に

HIV看護への意欲のある看護師さんがこれだけいることを、大変心強く感じました。

最後に、高田昇先生より「エイズ診療はチーム医療で」と題した講演がありました。



HIVの治療法のなかった時代から現在までの流れを幅広く紹介されました。その中でも特に、チーム医療と多職種の研修に力を注いでこられたことが印象的でした。

職員向けエイズ講演会は毎年行われていますが、今回は当院のHIV/AIDS診療に長年携わってきた高田昇先生の退任を記念したものであります。

今回の講演会自体が多職種によるものであり、高田先生の退任記念にふさわしい会となったように思います。



(エイズ医療対策室 臨床心理士 喜花伸子)

### 平成21年度広島大学教職員向けエイズ講演会 プログラム

題名:『ここまで来た！広島大学病院エイズケア』

- 1「薬がない頃のカウンセリングの実情」  
兒玉憲一 教授(広島大学大学院教育学研究科)
- 2「エイズ看護ワーキンググループの成り立ちと活動」  
下川直美 副看護師長(看護部)
- 3「広島大学病院のエイズの歴史と今後」  
高田 昇 診療教授(輸血部・エイズ医療対策室)

## エイズ拠点病院医療従事者海外実地研修を終えて 6階東病棟 看護師 松下涼子



ある日、いつものように院内の通達に目を通していた。「エイズ拠点病院医療従事者海外実地研修（看護師コース）」の文字が目にとまった。私が看護師を目指すきっかけになったある映画を思い出した。その映画を観たあとに抱いた不安と恐怖と共に、自分にできる事を探したいと思い看護の道を選んだのだ。

師長からの「興味はない？研修に行ってみない？」の言葉の返事に迷いはなかった。しかし、研修初日。メンバーとの自己紹介で、自分は場違いな所に来てしまったのではないかと不安でいっぱいになっていた。

不安と緊張の中、研修が始まった。研修内容は、次の表のようにいろんな講義や実地研修が盛り込まれていた。

### 研修内容

- ・ヒューマンセクシャリティーとは
- ・エイズ・HIVに関する基本的な知識とそれをどのように伝えていくのか
- ・アメリカの病院におけるHIV外来ケアの実際、外来チームのそれぞれの役割と連携について
- ・援助的コミュニケーションのスキル
- ・日本の看護VSアメリカの看護
- ・HIVと倫理問題
- ・HIVをとりまく心理問題



その中で、最も考えさせられたのは「HIVをとりまく心理問題」の講義であった。この講義は事例を用い、その時の看護師の心理を考えディスカッションするものであった。

HIV患者をケアする際、根拠のない恐怖心を抱くことは少なくないそうだ。その原因となるものは、「知識量が少ない」「経験が少ない」「偏見」などの研究結果があると言われていた。

当病棟でもHIV患者の入院経験が一度ある。その時の事を振り返ってみた。慢性疾患となってきており、HIV患者の高齢化とともに循環器疾患で来院される患者様も増えてくるだろう。そのため、い

つでも受け入れられる体制作りをしておく必要があると感じている。



HIV外来の看護師にひとつずつこのような部屋が与えられており、外来受診日には患者と面談を行っている。



医師の診察室。



研修も半分が過ぎ、初めての休日。サンフランシスコに着いてからずっと雨、雨、雨・・・だった天気もこの休日だけは太陽が顔を見せてくれた。みんなで相談し、カリ

フォルニアワインのワイナリーの観光ツアーに行くことにした。3箇所のワイナリーに行き、テイスティングをした。普段なら大丈夫なはずなのに、時差ボケ？緊張のせい？なのか1箇所目で顔は真っ赤になり、足もとにはふらついてしまったため、ワインはそれからは飲めず、見るだけとなった。

上写真「ワイントレイン」ゆっくり走っており、列車のなかでは食事をしたりワインを飲んでたのしんでいる。

2週目に入ると、時間の速度が速く感じられた。終了証書を受け取る時は、達成感と嬉しさでみんな笑顔でいっぱいとなった。



不安と緊張の中で始まった研修も、終了証書を受け取る時にはこれからの自分の役割を考えていた。海外での研修は、いつもと違う環境に自分を置くことで、たくさんのことを吸収できた機会となった。研修に参加する機会を下さったエイズ予防財団のみなさま、研修でお世話になったみなさまに感謝いたします。



## 平成22年度広島県エイズ 中核拠点病院等連絡協議会及び 医療従事者研修会のご案内

日時：平成22年7月9日（金）14:00～17:00  
場所：広島市立広島市民病院（中区基町7-33）

### プログラム

14:05～会議 報告

「広島県におけるHIV/エイズ対策について」  
「HIV陽性者に対する緩和ケア医療に関する報告」  
土井 正男（県立広島病院 エイズ支援室長）  
「緩和ケア病棟からの症例」  
本家 好文（広島県緩和ケア支援センター センター長）

15:30～研修会 講演

『緩和ケア病棟におけるHIV患者のおかれた  
現状と課題』  
本田 美和子（国立国際医療研究センター病院  
エイズ治療・研究開発センター 外来医長）  
『HIV治療に係わる診療報酬と治療薬について』  
藤井 輝久（広島大学病院 エイズ医療対策室長）

15:30～の医療従事者研修会は公開となっております。（申込み不要）

## 平成22年度第1回中国・四国 ブロックエイズ治療拠点病院等 連絡協議会のご案内

日時：平成22年7月23日（金）14:00～17:30  
場所：鯉城会館 5階（中区大手町1-5-3）

### プログラム

14:05～会議 報告

『中国・四国ブロックのエイズ対策の実施状況について』  
広島大学原爆放射線医科学研究所 教授 木村昭郎  
広島県臨床心理士会 会長 内野悌司  
県立広島大学保健福祉学部 学生

14:35～特別講演（休憩10分程度含む）

演題 『HIV感染者の長期療養支援 大阪医療センター  
の症例 介護が必要になった症例を中心に』  
座長 高田 昇  
（広島文化学園大学看護学部看護学科 教授）  
講師 上平 朝子（大阪医療センター 感染症内科科長）  
岡本 学（大阪医療センター 医療相談室主任）

公開会議となっております。ご希望の方は、  
直接会場までお越し下さい。（申込み不要）

## 2010年7月～10月のHIV/AIDS関連イベントのご案内

～ は事前応募が必要です。興味のある方は、エイズ医療対策室（内線5351）までお問合せ下さい。

### 第1回四国地方医療体制構築のための連携会議

日時：2010年7月23日（金）  
場所：ひろしま国際ホテル（広島市中区）  
上記は関係者のみの会議です。

### 第25回抗HIV薬服薬指導のための研修会 平成22年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会

日時：2010年7月31日（土）～8月1日（日）  
場所：ひろしま国際ホテル（広島市中区）

### 第19・20回看護師のためのエイズ診療従事者研修

第19回日時：2010年9月27日（月）～28日（火）  
第20回日時：2010年10月18日（月）～19日（火）  
場所：広島大学病院 外来棟2階会議室

### 第6回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ ネットワーク会議

日時：2010年10月2日（土）～3日（日）  
場所：三原国際ホテル・県立広島大学（三原）

<ご意見募集>

ご意見やご希望がございましたら、エイズ医療対策室（5351）までお寄せください。